

事業所名 : グループホーム りんどう

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500130		
法人名	株式会社 神山		
事業所名	グループホーム りんどう		
所在地	〒028-3172 岩手県花巻市石鳥谷町北寺林11-1403		
自己評価作成日	令和7年12月30日	評価結果市町村受理日	令和8年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様、一人ひとりの生活習慣を大切に可能な限りその方のペースに合わせ共同生活が送れるように工夫して支援している。身体機能を維持、向上していけるように毎日、体操やレクリエーションを実施し無理の無い範囲でお誘いしている。利用者様に喜んでもらえるように行事も企画して実施している。その様子をInstagramにアップしご家族様にも雰囲気をお伝えしている。ご家族様にも気軽に連絡をしていただけるようにLINEやSMSでの連絡にも対応しており、ご家族様にも好評をいただいている。利用者様の体調や様子に変化があった際はご家族様や主治医に情報提供が出来るようにケース記録を残し職員にも情報共有している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2010年に開設した事業所で「心やすらぐ 温かい ふれあいを」を介護理念に掲げ、地域の高齢者のため心やすらぐ介護サービスの提供に取り組んでいる。理念に掲げる家庭的で温かい雰囲気大切に、食事は栄養士資格を持つ社長が献立を作成して、三食手作りで提供している。利用者職員と一緒に収穫した自家菜園の野菜も使い、品数も豊富で季節感あふれる食卓を職員と一緒に囲んでいる。事業所では、情報の伝達時間帯とその保存のメリットを活かすため、家族との連絡にSNSを活用し、家族が話しやすい環境づくりと利便性に供し好評を得ている。また、職員全員で利用者全員のカンファレンスを毎月実施し、利用者個々の状況を振り返って、事業所一丸で望ましいケアのあり方の探求に余念がない。今日の介護業界の趨勢と異なり離職率が低く、事業所では、産休明けの職員も子育てをしながら働ける職場環境のもと、利用者心やすらぐ介護サービスの提供に努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和8年1月29日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	・職員に理念を共有出来るように事務所に事業所理念を掲示している。毎年度一人ひとりに目標を立ててもらい掲示している。	2010年の事業所設立時に作成した理念、「心やさすぐ 温かい ふれあいを」を基礎とする介護理念と八つの行動指針を定め、日々の具体的なケアに取り組んでいる。介護理念と行動指針は職員の目につきやすい事務所の壁に掲示している。管理者は、職員一人ひとりがさらに理念に向かって目線を合わせて取り組んでいけるよう取り組んでいきたいとしている。	理念は事業所が目指すサービスの在り方を示す根幹を成しており、全職員が理念を理解し実践に活かしていくことが大切です。すでに八つの行動指針が定められているので、この中から重点項目を定めて年度毎の一つずつ具体的に取り組むことにより、理念に対する職員の意識がさらに高まり、より良い実践につながって行くことを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	・毎月区長さんが広報を届けてくれている。毎回では無いが事業所の広報も区長さんをお願いして地域の方へ配ってもらっている。防災訓練の際には地区防災組合の方々に参加してくれている。	石鳥谷第18区自治会に加入しており、毎月区長が広報など地域情報を届けてくれる。また、事業所から年4回発行している広報「りんどうタイムズ」を自治会を通じて地区の全戸に配布してもらい、事業所の情報提供に努めている。石鳥谷祭りの山車が来てくれたり、地区防災組合の協力を得るなど地域の方々との関係を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	・事業所の広報内で認知症についての記事を掲載し紹介している。運営推進会議でも認知症の方の対応方法など紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・運営推進会議でいただいた意見等は職員間でも共有し、より良いサービス提供に努めている。	区長、民生委員、地域包括支援センター、行政職員、利用者家族で構成する委員は、隣接する特別養護老人ホームの運営推進会議の委員を兼ねていることから、2か月に1回特養と同日に開催している。対面での開催を基本としているが、今年度は諸事情により2回は書面開催となっている。事業所からの報告事項と、各機関からの情報提供などが行われている。	

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム りんどう

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	・日ごろから運営について分からない事等あれば積極的に連絡を取っている。運営推進会議に市の職員も参加しているので相談や意見などいただいている。	要介護認定申請や情報開示などで、市の石鳥谷支所に出向くことが多い。最近は様々な手続きはインターネットが主流となっており、対面で話をする機会が減っているものの、電話での事業所の困りごと相談にも、担当者が親身に対応していただき早期の解決が図られている。窓口を務める取締役や管理者へは、担当の市高齢福祉課から必要の都度情報提供いただいております、行政との良い関係づくりが出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・内部研修や委員会で資料などを用いて理解を深めている。	指針を作成し、年4回職員研修を実施し身体拘束をしないケアの実践について理解を深めている。2年前の身体拘束の事例では、身体拘束の三原則と早期解除に向けた取り組みを徹底し、主治医とも連携しながら法に基づいた対応を行っている。スピーチロックはお互いに気を付けるようにしているが、耳にした場合には管理者が注意を促している。防犯のため正面玄関の施錠は夜間のみとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	・内部研修や委員会で資料などを用いて理解を深めている。日々、利用者への対応が虐待に該当しないか職員間でも情報共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	・内部研修を行っている。		

事業所名 : グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	・契約時に説明を行い、分からないことがあれば随時対応している。改定や変更がある場合は速やかに説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・日々、利用者や家族が意見や要望を言いやすい関係を築く様心掛けている。ご家族にはLINEなども活用し言いやすい環境作りを心掛けている。	家族へは毎月請求書と一緒に会報を送付しているほか、年4回の広報「りんどうタイムズ」やSNS（ライン、インスタグラム、メッセージ）などで日頃の様子をお知らせし好評である。受診介助は家族対応を基本としているため、ほとんどの家族と毎月顔を合わせ直接話をする事も出来ている。家族からは感謝の声や、このままお願いします、というような声は届くが、具体的な意見はあまり聞かれない。利用者からの意見は日常的な希望要望が多く、出された希望には可能な限り応えるようにしている。	受診介助などでほとんどの家族と対面で話をする機会があり、感謝の声が届けられていますが、利用者の立場に立ったより良い運営をしていくため、利用者家族の満足度調査やアンケート調査などから、より具体的な運営についての意見を聴取して取り組んでいくことを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・日常会話からコミュニケーションを取りやすい関係作りを心掛けている。	毎月1回定例の職員会議を開催し、運営に関する事柄についても意見を出し合っている。例えばネンの在庫管理など、小さなことでも職員が気づいたことを発言したり提案できる職場環境が整っており、提案された事項は可能な限り具体化して運営の改善に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	・希望者には個人面談を行っている。労働時間や勤務日数についても柔軟に対応している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・希望者には研修を受けさせている。旅費や資格取得に係る費用を支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	・実態調査などで他事業所に伺った際や研修会等で情報股間をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	・実態調査の際、本人の表情や言動から、どのような事に困っているか、不安になっているかを聞き取りをし、職員間で共有して対応方法を検討している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	・申し込みの際に、詳しくお話を伺っている。傾聴し、話しやすい雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・申し込みや実態調査で伺った情報をもとに職員間で共有している。入居後、生活の様子をみながらケアプランを作成し、その都度、必要な支援や改善が必要な支援について職員間で情報共有している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	・なるべく自立した生活が送れるように出来ないことを支援するように心掛けている。日々、どのような生活を送りたいかなど傾聴し実現できるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	・変化があった際は細目に相談、報告するように努めている。毎月お便りを作成し情報共有している。その他にもLINEやInstagramなども対応しており、気軽に連絡が出来るよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・感染症の流行状況にもよるが、外出や外泊、面会など気軽にしてもらえるように対応している。	馴染みの関係については入居時の聞き取りに加え、入居後にも家族や本人から得られた情報を職員間で共有して支援に努めている。感染症防止の観点からやむを得ず対面の面会制限を行う場合には、テレビ電話やオンラインで対応し、交流が途切れないように支援している。友人からの手紙に返事を書いたり、通院時に利用者の出生地まで足を延ばしたり、馴染みの場所で食事するなど、家族の協力を得ながら支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	・その人の性格や、相性などを考慮し座る席など配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	・退居後も相談や助言、情報が必要な場合は対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・日々、何気ない会話などから本人の意向や思いを聞き取り共有している。実現に向け検討し少しでも希望に近づけるように努めている。	ほとんどの利用者が会話でのコミュニケーションが可能で、日常生活の中でさりげなく発せられた思いや意向は、申し送りノートなどを活用し共有されている。特に入浴時や職員と一緒に食事の時間は本人が話しやすい雰囲気になっており、その時々のお思いに耳を傾けるように心掛けて対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・実態調査時やサービスの担当者から聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	・生活の様子をケース記録に残し、職員間で共有している。状態に変化があった際はすぐに職員間で共有するように努めている。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム りんどう

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	・本人と家族にどのような暮らしがしたいか、どんな事が不安か聞き取りをし、ケアプランに繁栄させている。その後、毎月カンファレンスを行い変化があった際はプラン内容の見直しを行っている。	毎月の職員会議で利用者全員のカンファレンスを行ない、職員全体で利用者個々の状況やケアのあり方について意見を出し合っている。介護計画は6か月ごとの見直しを基本とし、モニタリングを参考に居室担当者がカンファレンスの内容をまとめ、本人や家族からの意見を確認のうえで、計画作成担当者が作成している。作成された介護計画は職員会議で共有され、実践し、評価するという一連の流れが出来ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・日々、変化があった場合は記録を残し職員間で共有している。プラン内容に見直しの必要があればすぐに検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	・本人や家族から、提案や要望があった際は、職員間で情報共有し実現に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	・町内の図書館から毎月本を借りて読んでもらっている。行事として地域のお祭りなどに参加し楽しんでもらっている。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム りんどう

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	・ご本人や家族の希望通りに受診してもらっている。変化があった際はケース記録を残し、情報提供している。	入居前からのかかりつけ医に受診しており、家族の受診対応を基本としている。月1回の定期受診の利用者がほとんどで、受診時にはバイタル表や状況の変化、事業所から伝えたいことや質問などを情報提供書として家族に渡している。受診結果は家族を通して確認し、事業所内で共有して対応している。家族対応としているが、特に必要がある場合には職員も同行し、より細かい状況を医師に伝え指示を仰いでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	・現在看護師は常駐していないが隣接している特養の看護師と相談出来る体制を作っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・病院側へ日々の様子など情報提供し、入院後も情報の共有を密にするように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	・契約時に説明している。	重度化した場合の対応に係る指針を作成しているが、看護スタッフがいないことなど、現状として看取り対応ができないことを入居時に説明し、家族の理解を得ている。医療行為が必要になったり、重度化で普通浴槽での入浴が出来なくなった場合には、入院や特養への住み替えなどを説明し、本人にとってより良い選択が出来るよう支援している。隣接する法人の特養との連携も可能なことは、家族の安心感につながっている。	

事業所名 : グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	・急変時の対応など、日々整備し周知している。応急手当の研修も行っており、万が一に備えている。	/	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	・消防署立ち合いの下、避難訓練を行っている。地区防災組合の方も参加しており協力体制を築いている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	・利用者様それぞれの自尊心を尊重しながら、適切な対応に努めている。日々の様子をケースに記録し、月一回のカンファレンスにて職員間で情報を共有し話し合った内容は文章化し周知している。	排泄介助の際にはトイレのドアを閉め、入浴介助の際には、裸のままにしておかないなど、当たり前のことではあるが、羞恥心の伴う介助への配慮を徹底している。人権擁護に関する研修は毎年行っており職員の理解も進んでいる。利用者一人ひとりを尊重するために、個々の得意な事を見つけ出し、それを活かす支援について話し合い共有して取り組んでいる。	/	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	・コミュニケーションを図りながら、ご本人の思いや希望、悩みや楽しみ等をくみ取れるよう、傾聴しながら対応に努めている。	/		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・一人ひとりの生活習慣、生活状態を理解し、ご本人の希望も考慮しながら支援を行っている。居室で一人になると独語がある利用者様には無理の無い範囲でリビングにお誘いし、意欲低下に繋がらないように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	・季節にあった衣服と一緒に選ぶように心掛けたり、衣類の重ね着が見られる利用者様には、重ね着をしないように支援を行っている。外出時の整髪、行事の際に職員が手伝いをしながらお化粧をしたり、気分転換にも繋がっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	・食事や手作りおやつの味見、軽作業等、職員との会話を楽しみながら一緒に行っている。季節ごとの旬の食材を取り入れ、視覚、嗅覚、味覚でも楽しめるように心掛けている。	栄養士資格を持つ社長が献立を作成し、職員が手作りで提供している。日常の食事も彩り良く品数も豊富であり、行事食もおせち料理や七草がゆ、ちらし寿司、夏祭りには屋台風にして提供するなど、利用者の希望も取り入れながら工夫を凝らしている。食事は職員も利用者と一緒に同じ物を食べ、家庭的な雰囲気を大切にしている。利用者が収穫した野菜を使ったり、盛り付けや配膳、食器拭きなど利用者も出来る事を一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士が作成した献立をもとに、一人ひとりにあった量や食形態で提供している。		

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	・毎食後、口腔ケアの声掛けをしている。希望がある方には月一回の訪問歯科を利用して口腔内の様子やクリーニングをしてもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	・排泄パターンや状態を把握し共有している。自立に向け声掛けや見守りをし、必要に応じてリハパンや尿取りパッドを使用したり、一人ひとりにあった方法を考え支援している。	布パンツを着用している人が3名、リハビリパンツのみと尿取りパットも併用している人を合わせて6名となっている。全員がトイレで排泄できるが、間に合わず失禁してしまう場合もあるため、排泄チェック表を活用して声掛け誘導し、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	・毎日の体操に参加し身体を動かしてもらうようにしている。かかりつけ医と情報を共有し内服薬や水分量を調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	・入浴日や時間は決まっている為、その中で長く入浴したい方等は順番を考えて声掛けをしている。可能な限り、一人ひとりの要望に合わせている。	入浴は週2、3回を基本とし、出来ない時には清拭をして保清に努めている。入浴日は月、水、金の午後とし、職員2名で対応している。出来るだけゆったりとリラックスして入浴できるよう、季節の菖蒲湯や柚子湯を取り入れたり、歌を歌ったりして楽しんでいる。入浴を好まない利用者には「お手伝いしてください」「軟膏を塗りましょう」などとさりげなく誘導し、それでも難しい場合には無理せず曜日を変えるなど、入浴が楽しめるよう支援している。	

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム りんどう

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	・個人の生活習慣や体調に合わせて休みたい時に休んでいただいている。ただし、昼夜逆転傾向にある利用者様には、時間を調整したり自宅で使用していた寝具を使っていただくなど、安心して休める環境作りを心掛けていている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	・薬の説明書を個人別にファイルし、職員全員が見られるようにしている。内服薬の変更に伴い、注意する点など、申し送りをしたり薬のセット時に再び確認が出来るように記入したメモを常につけている。服用後に変化があればケース記録に残し情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	・個人別に出来ることややりたいことを把握し支援している。行事の準備など一緒に行ったり、月別に各利用者の誕生会を行ったりと楽しい時間を過ごしていただいている。畑と一緒に野菜を収穫し、その野菜を使用し料理をしたり、食事での楽しみを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	・希望があれば天候などを考慮し外へ行き散歩をしたりしている。初詣や花見、お祭りなど地域の人々との協力のもと出かけたり出来る機会を作っている。誕生月など外食に出かけたりする機会も作っている。日常的には、希望があれば夜勤明けの職員と共に短時間の散歩を実施している。花壇の花植えを行ったり、畑の草取りをしたり、出来上がった野菜などを収穫したりしている。	自然豊かな高台に立地しており、希望があれば天候を考慮しながら戸外へ出かけられるよう支援している。暖かい時には縁側に腰かけてお茶飲みをしたり、広い敷地内を隣接する特養まで散歩したり、出来る人は職員と一緒に家庭菜園で草取りや野菜を収穫して楽しんでいる。グループに分かれてドライブにも出かけているほか、毎月の受診時に家族と一緒に外食やドライブをすることも利用者の楽しみになっている。	

令和 7 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム りんどう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・現金の持ち込みは利用者様同士のトラブルに繋がる為、お断りしている。ただし、不足の物や欲しい物など合った場合は家族様と相談し立て替えの上購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	・希望があれば電話を掛けられるように準備は出来ている。手紙が来た際は自力で返事を書ける方、また、家族が面会時に一緒に書いたりそれぞれ対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・各所分かりやすい様に表示している。施設内の温度差が生じないよう心がけている。夕食後すぐに就寝する方も居るので片付けをする音にも注意している。毎月、季節に合った作品作りをし、壁に飾り、変化が分かる様工夫している。	食堂兼リビングにはテーブルと椅子、ソファが配置され、利用者はテレビを見たり、談笑したり思い思いに過ごしている。食堂兼リビングの一角にあるキッチンからは、野菜を刻む包丁の音や食事の良い匂いが漂い、家庭的な雰囲気が感じられる。床暖房、エアコン、加湿器が設置された快適な室内で、大きな窓から自然を眺め、壁に飾られた手作り作品などで季節を感じながら過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	・利用者の性格や相性に注意し食事の時は定位置に座っているが、その他の時間は食卓を挟み正反対側にテレビ、テーブル、ソファを各1セットずつ2か所に配置し気の合う方同士が座れるように工夫している。		

令和 7 年度

事業所名 : グループホーム りんどう

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ご せるような工夫をしている。	・入居の際、日常的に使用していた物を持参して いただき日常生活の場として馴染めるよう配置し ている。	居室にはベッド、筆筒、カーテンが備え付けられ ており、室温はエアコンで適切に管理され季節を 問わず快適に過ごすことが出来る環境となっ ている。利用者それぞれが使い慣れた物を持ち込 んで、自分好みの居心地の良い居室づくりを行っ ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫してい る。	・歩行器使用の方や、車椅子自走出来る方は自由 に居室やトイレに行けるよう通路やスペースの 確保をしている。タオルや新聞紙畳みなど、自発 的に取り組まれている。居室内では、心身の状 況を見て動線の障害となる物(タオルハンガー等) は置かないように安全に過ごせるよう個別に対 応している。		